

# ISO/TC225 第9回総会参加報告

ISO20252 認証協議会 委員長 一ノ瀬 裕幸  
同委員 浅野 怜祐

## 1. 国際会議の概要

ISO20252 の今後の方向性を議論するため、TC225 の第9回総会がロンドンで開催された。

<ロンドン会議の概要>

日時： 2016年3月11日(金)～12日(土)

会議名： ISO/TC225 第9回総会

参加者： TC225 P メンバー (8カ国+2オブザーバー機関、計24名参加)

Chairman: Mr. Don Amberse (カナダ MRIA 代表)

Secretary: Mrs. Natalia Oritz de Zarate (スペイン AENOR 事務局)

参加国： 日本(一ノ瀬、浅野、中山\*1:3)、イギリス(4)、カナダ(2)、オランダ(2)、  
アメリカ(3)、オーストリア/ドイツ\*2(2)、オーストラリア(2)、スペイン\*3(1)、  
ESOMAR (オブザーバー:1)、WAPOR (オブザーバー:1)、  
AENOR (スペイン TC225 事務局:1)、ASI (オーストリア WG3 事務局:1)、  
ISO/CS (ISO 国際中央事務局:1)

場所： ロンドン Marketing Research Society (英国市場調査協会) 会議室

※1) 今回は経済産業省基準認証政策課より中山文博課長補佐が特別参加

※2) オーストリアとドイツは、1つの代表国としてカウント

※3) スペインが久々に代表を派遣、8カ国会合に

## 2. 討議/決定事項

(1) 冒頭の事務局活動報告の中で、前回のトロント会議で討議された“Web Analyses (19731)”を DIS とすることがその後の P メンバー間の投票で可決され、4月以降に全 ISO 参加国の国際投票に付されることが報告された。順調に進めば、今年末か2017年初頭にも公式に ISO 化(発行)される見通しである。

また、TC225 発足時からの P メンバーであったフランスが O メンバーに後退した(久しく代表を派遣していなかった)ことで、P メンバーは計17カ国となった。

(2) 本総会での決定事項は以下の通り。

### ① ISO26362 を ISO20252 に統合し、単一ナンバー・単一規格に再編・改訂する

これが今回会議の最大の争点であった。最後までオーストリア/ドイツが反対したが、他国の賛成多数で最終決定となった。これに伴い、現行の ISO26362 改訂作業はキャンセルされる(後述する WG1 が復活し、ISO20252 の改訂作業に統合して引き継がれる)。

### ② ISO20252 改訂にあたっての留意事項を確認

改訂にあたり、リサーチプロセスに特化した適切な文書構造と命名ルールに沿って策定す

ることなどを確認した。これは他の TC との競合を意識した決議で、内容面の問題ではない（⇒ 後述 4 (2)を参照）。（オーストリア/ドイツは棄権）

### ③ WG1 を復活させ、ISO20252 の改訂作業に取り組む

長らく休止状態にあった WG1（市場・世論・社会調査）を再起動し、新しくエキスパート（委員）を募って ISO20252 の改訂作業を主導させる。この委員長（Convenor）にカナダの Don 氏を任命。実質的には、各国とも現在の TC225 委員が兼務する形になる見込み。

（日本も WG1 メンバーを再登録する必要がある ⇒ 日本規格協会に相談）。

### ④ WG1 の中で、以下の起草作業グループ担当国を任命する（予定）

- ・ 一般要求事項： オーストラリア、イギリス
- ・ データ管理・処理： オーストラリア、オーストリア/ドイツ
- ・ データ収集（フィールド）・観察： イギリス、スペイン
- ・ アクセスパネルを含む自記入式調査： アメリカ、日本、オランダ、カナダ、スペイン（ISO26362 の改訂はここに包含される）

## 3. 今後の作業スケジュール

- ① 各作業グループは、6 月末までに初期ドラフトをオーストラリアの Elissa 氏に提出。
- ② Elissa 氏が集約した文書を事務局から WG1 に回覧し、コメントを 7 月 15 日までに要請。
- ③ それを受けて、各国の国内委員会は 9 月 20 日までに返答を提出。
- ④ 2016 年 10 月 5 日（水）～7 日（金）に、WG1/WG3/TC225 会議をマドリッドで開催。
- ⑤ その次の会合は、2017 年 4 月 19 日（水）～21 日（金）に東京で開催。

## 4. 会議の状況と関連情報

### (1) 重要決定を見越し、久々に 20 名を超える参加者が集結

- ・ 今回は ISO20252 の方向性を決める重要な会合だけあって、各国から多くのメンバーが参集した。また、初代議長の Enrique 氏（スペイン）、2 代目議長の Bill 氏（イギリス）、米国 CASRO トップの Diane 氏、（もともと参加している）ESOMAR の Finn 事務局長など、世界の市場調査業界の「大物」がそろい踏みするところとなった。
- ・ 結果的には事前の予想通り、オーストリア/ドイツの抵抗に賛同する国は現れず、ISO26362 を 20252 に組み込んで大幅な改訂を行うことが決定された（各国代表の挙手による議決）。

### (2) 規格の用語をめぐる問題、いまだ決着せず

- ・ ISO20252 だけの問題ではないのだが、ここ数年来、ISO9000 を所管する TC176 から「マネジメント・システムという用語を他の規格で使わないように」との要請があり、少なからず混乱を来している。当初は「品質マネジメント・システム（Quality Management System）」が回避要請の対象だったため、ISO20252 も「Research Process Management System」に変更した経緯があるのだが、直近では「そもそも Management System がダメ」とのことで、対応に苦慮している。
- ・ 今回、議長および事務局から「Research Project Management Requirements」にしたい

旨の提案がなされたのだが、オーストラリア、イギリス、アメリカ、オーストリア/ドイツから「スコープに関わる根本的な変更であり、受け入れがたい」との反対意見が出され、検討継続となった。

### (3) 他のTCへのリエゾン、各作業部会の報告より

- ・ TC69（統計の適用）のビッグデータ作業部会がWGに昇格し、5月に発足するとのこと。  
（日本のTC69国内委員会が対応するかどうか、別途確認を試みる）。
- ・ TC289（ブランド評価）、TC290（オンラインでの評判）については、あまり進展はないとのことであった。特にTC289は事務局（中国）が機能せず、事実上停止状態らしい。
- ・ TC225の広報作業部会より、ブログとTwitterでの情報発信体制を整えたとの報告。  
⇒ <https://mosrstandards.wordpress.com/>  
⇒ <https://twitter.com/ISO20252/>  
（ただし、「ドラフトの段階ではあまり広報しないほうがよい」との意見もあり）。

### (4) アクセスパネル (26362)・オンラインサンプリングに関する改訂はアメリカが主導

- ・ 現行のISO26362に関わる改訂を含む作業部会は、アメリカのPeter氏がリーダーに任命され、この間ESOMAR等が取り組んできたオンラインサンプルに関するガイドラインの内容がかなり反映されることになる見通しである（Peter氏は同ガイドラインの主たる起草メンバーでもあった）。  
前々回まで不参加だったアメリカだが、今回はPeter氏に加えてCASROの代表2名が参加してきたことから、ようやく「本気」で取り組む判断をしたものとみられる（世界市場の約4割を占めるアメリカの参画は、ISOとしても重要な意味を持つ）。
- ・ なお、「オンラインとオフラインの規格は分けるべきか?」、「データ収集とサンプリングは分けるべきか?」、「オンライン上のリクルーティングはどうするか?」といった諸課題でまだ意見が集約されておらず、議論が長引く可能性がある。次はこれらが重要な論点になるはずである。

### (5) ISO26362の20252への統合は決まったものの、その形式については改めて検討

- ・ オーストリア/ドイツを除き、「新しいISO20252は、26362の内容を包含する単一規格とする」ことでは一致をみたが、懸案の「Parts方式かAnnexes方式か?」については意見が割れたまま決着をみられなかった。
- ・ 各国ともそれぞれに事情があり、それぞれの主張を繰り返すのみで、果たして妥協の余地があるものかどうか、何とも判断しかねる状況であった。こちらはWG1の場に議論が引き継がれることになる。

### (6) その他留意すべき課題

- ・ ESOMARのFinn事務局長より、「EUの新個人情報保護規制でCookieの収集が違法にな

る。19731ではどう対処すべきか？」との課題提起があった。市場調査業界全体に関わる重要な問題であり、ISO規格の議論にとどまらず、対処策が検討される必要がある。

#### (7) 2017年4月（19～21日）にTC225東京会議開催を受諾

- ・ 前回のトロント会議での要請に応える形で、来年4月に東京でJMRAがTC225をホストすることを表明した。およそ11年ぶりの日本開催となる。

おそらくその場では、26362を組み込んだ新ISO20252の改訂に関して実質的な最終討議がなされることになる。ホスト国として相応の責任を果たせるよう、国内の議論を詰めていくこととしたい。

#### <TC225ロンドン会議参加者>



以上